

1. 3校全体の取り組み

1. 1 「共創郷育：やまと再構築プロジェクト」の概要及び各校の役割

(1) 「共創郷育：やまと再構築プロジェクト」の概要

奈良県南部地域は、人口減少が全国平均速度の倍の速さで進行しており、若者の人口流入施策が必要である。また、奈良県は県外就職率 28.8%と全国 2 位であり、製造業従業者数も全国 36 位、製造業出荷額が全国 35 位という状況で、地域ものづくり力が脆弱であるといった課題を抱えている。

「共創郷育：やまと再構築プロジェクト」は、こうした課題解決に向けて奈良女子大学が基幹校となり、奈良工業高等専門学校と奈良県立大学を参加校として推進している。奈良女子大学内に「やまと共創郷育センター」を設置し、奈良経済同友会などの県内企業ならびに奈良県と連携する体制を整え、教育プログラム、就職支援プログラムの整備、拡充を進めてきた。

COC+3 校は、教育・研究資源を活かした授業科目を学生に提供し、さらに、単位互換制度や、各校が開講する授業科目への教員の相互派遣を通じて、それぞれの強みを共有している。地域とのつながりを強くした教育プログラムを通じて学生の視野を広げ、興味や関心を触発することによって、地方創生に対する多面的な思考力と行動力を高め、多様な地域人材を輩出し、一人でも多くの学生が奈良県に就職することを目指している。



「共創郷育：やまと再構築プロジェクト」概要

(2) 各校の役割

奈良女子大学は事業全体を円滑かつ効果的に実施できるよう努め、特に、県南部の自治体とともに地域の活性化を図っている。奈良工業高等専門学校は、工学系専門分野から県内企業・自治体のニーズに対応して企業製品の機能改善や新製品開発に貢献し、企業業績の向上による雇用増を図っている。奈良県立大学は、観光学等の視点から観光や商店の活性化等に取り組んできた実績を活かし、県内就職先の開拓を図っている。

奈良女子大学	COC+3 校の取りまとめを行い、事業が円滑に実施できるよう努める。奈良県、特に県南部の活性化を地域自治体とともに図る。教育プログラムにおいて地域志向科目を拡充し、学生には地域に根差した教育を施し、県内就職者を増やす役割を担う。
奈良工業高等専門学校	奈良県内唯一の工学系の高等教育機関として、他の大学にはない分野の教育面で地方創生に貢献する。奈良県内企業からのニーズに対応、企業とのパイプを増やし、企業製品の機能改善、新製品開発による企業業績の向上による雇用増に結び付ける。
奈良県立大学	地域創造学部を擁する大学として、観光や商店の活性化等の観点から地域の活性化に取り組む。同時に、奈良女子大学及び奈良県立大学生の県内就職支援ならびに県内就職先の開拓を行う。
参加自治体	学生が地域に入り地域の課題発見・解決能力を身につける PBL 型授業の実施に協力し、地域創生を担う人材の養成に寄与する。また、就職情報、県内企業の情報の提供を行う。
参加企業	ゲストスピーカーとして授業への参画、企業説明会への協力、学生と OB・OG との交流会、企業（会社）見学会への協力、インターンシップの受け入れ拡充、企業トップによるビジネスマインドの醸成や起業などにかかるノウハウ等の提供を行う。
奈良佐保短期大学（協力校）	社会の重要な課題と関連する生活福祉・食物栄養コース等を有しており、COC+参加校である奈良工業高等専門学校の介護用ロボットの試作等に対する実践的な情報提供等の協力を行う。

1. 2 やまと共創郷育センターCOC+評価委員会（平成 30 年度評価）

令和元年 7 月 2 日（火）

令和元年度やまと共創郷育センターCOC+評価委員会を開催した。やまと共創郷育センターCOC+評価委員会はCOC+事業について適切な評価を行うための組織で、5名の評価委員ならびにCOC+3校のメンバーから構成されている。COC+評価委員会では、まずはじめに評価委員長から評価書作成にあたっての講評が行われた。特に前年度までの取り組みと比較して進捗が認められるものとして、①地域志向教育カリキュラム（奈良女子大学）、地域創生マインド養成教育プログラム（奈良工業高等専門学校）がそれぞれ体系化されて、地域志向・地域創生に向けて学生への総合的な意識づけが可能なシステムが完成したこと、②奈良県内の行政・企業への就職意欲を高めるために、奈良県の実情にあったきめ細かな指導や就職支援が丁寧に実施されたこと（例：B to B ものづくり企業が多いことを踏まえた企業見学ツアー（3校合同）や7回に及ぶコーディネーター帯同のものづくり企業見学会（奈良女子大学）、人口10万人未満の小都市が多いという特色を踏まえた学生自身による行政へのインタビュー（奈良県立大学）など）が評価された。また、3校において、事業担当者だけでなく全教職員を対象としたニュースレター（奈良女子大学）や広報（奈良工業高等専門学校）、学生のインタビューを元に作成した小冊子「採用のポイント」の配布（奈良県立大学）によりWhole Schoolの取り組みにする努力が顕著であり、これらの取り組みが事業第4年度の成果に繋がったと考えられるとのコメントがあった。

続いて、評価委員とCOC+3校担当者を交えて、取り組み実績に対する事業の達成状況、進捗状況の評価ならびに意見交換を行い、委員からは、「これまでの地道な取り組みが実績からも認められ、学生・企業・行政への働きかけがかみ合ってきている。」、「奈良県内での定着と就職はもちろんのこと、地域志向教育を通じて自分自身の出身地も含めて地域で定着、就職という意識をもってもらうことが重要。」「これまでの取り組みの中で築いてきたネットワークを、事業終了によって途切れることがないように、またこれらの実績を形として残すとともに、後継事業の取り組みにつなげられるように引き続き検討するように。」といった意見があり、最終年度に求められている数値目標達成に向けた取り組みの方向性や、補助期間終了後の継続方法について様々な意見交換が行われた。



令和元年度 COC+評価委員会の様子

「地（知）の拠点大学による地域創生推進事業（COC+）」の全体評価について

1. 「地（知）の拠点大学による地域創生推進事業（COC+）」がスタートして第4年度にあたる平成30年度の事業活動はいくつの特長をあげることができる。ひとつは、地域志向教育カリキュラム（奈良女子大学）、地域創生マインド養成教育プログラム（奈良工業高専）がそれぞれ体系化されて、地域志向・地域創生に向けて学生への総合的な意識づけが可能なシステムが完成したことである。2つめは、奈良県内の行政・企業への就職意欲を高めるために、奈良県の実情にあったきめ細かな指導や就職支援が丁寧実施されたことである。例えば、B to B ものづくり企業が多いことを踏まえた企業見学ツアー（3校合同）や7回に及ぶコーディネーター帯同のものづくり企業見学会（奈良女子大学）、人口10万人未満の小都市が多いという特色を踏まえた行政へのインタビュー（奈良県立大学）などがそれに当たる。奈良県の実情を踏まえた体験型のこれらの取り組みが学生の地域マインドを捉え始めたと評価される。最後に、それぞれの大学・高専において、事業担当者だけでなく全教職員を対象としたニュースレター（奈良女子大学）や広報（奈良工業高専）、奈良県下市町村の採用担当者へのインタビューを元に作成した小冊子「採用のポイント」の配布（奈良県立大学）により Whole School の取り組みにする努力が顕著であった。これらの取り組みが第4年度の成果に繋がったと思われる。

2. 各大学・高専の取り組みの特長

◎ 奈良女子大学

- ・ 事業協働地域就職者数およびインターンシップ参加者数が目標を大きく上回ったことは高く評価される。
- ・ 多くの学生が運営に関わった「女子大学生ワーク&ライフ EXPO」に多数の参加者を得たことが参加企業に14名が就職した成果の一因となった。
- ・ B to B ものづくり企業が多いという奈良県内企業の特徴を踏まえ、「奈良県奈良しごとiセンター」の協力の下に実施したきめ細かな企業見学会、メールマガジン「やまじょぶだより」等による広報・周知活動が総合的に効果を発揮して、インターン参加者の増、参加学生の見学先企業への就職という具体的な成果に結実した。
- ・ 地域志向科目を体系化し、次年度に向けて必修化の体制を整えた。
- ・ 1回生および3回生を対象に意識調査を行い、学生の「奈良での就職」に結びつけるための課題を抽出・分析し、その成果をメールマガジンの創設につなげており、個別の学生とのコンタクトが取れるよう工夫を行っている。これらの取り組みは就職率およびインターンシップ参加率の向上に結びついたと考えられる。
- ・ 読みやすいニュースレターにより本事業の周知を図ったほか、やまと共創郷育センターWebサイトのアクセス数が月平均500件に近いこと等の広報により本事業の認知度が高まり、企業からの寄付に繋がったと思われる。

- ・県南部のサテライト施設を利用して PBL 型の授業を行うことにより、実践的に地方創生の課題に取り組んでいる。これは、事業終了後の「つながり」も視野に入れた計画と実践にもなっている。

◎ 奈良工業高等専門学校

- ・事業協働地域内就職者数および事業協働機関雇用創出数の目標を達したことは大いに評価される。
- ・奈良県と協働した「県内企業と教員との交流会」や「地域イノベーションコンソーシアム」の総会では、多くの出席者があり活発な意見交換が行われたことは県内企業との距離が近くなったことを示しており、「事業協働地域への U ターン就職数が 6 名（目標は 1 名）に結実した。
- ・地域創生マインド養成教育プログラムの構築が完了し、学年進行とともに履修していく地域創生科目が 6 科目揃い、履修対象学生が増えた。また、本事業により設置した地域創生科目を実施するための基幹教室名に地域創生を冠して、本事業の推進拠点として地域創生科目の活動のみならず、企業との協働にも有効に活用し、学内での地域創生風土の醸成に寄与している。
- ・地域共生クラスターを核に地域に根差した研究と県内企業との連携による PBL 型授業を実施していること、学生がこれらの授業から得た地域創生に関する知見を自分たちのアイデアに昇華し、コンテストで入賞しており、特許出願や多くの企業との共同研究にも発展している。

◎ 奈良県立大学

- ・特任教員を配置し、学生と企業の交流会を実施して、企業インタビューをポスターにまとめて学内で情報発信した。「奈良県下の地方自治体の人事担当者インタビュー」を COC / COC+推進室が小冊子にまとめて公務員志望の学生に配布した。県内就職者数及びインターンシップ参加者数は目標値を下回ってはいるが、その向上に向けての有効な取り組みであると評価される。

3. 最終年度に向けて

平成 30 年度はこれまでの経験を踏まえた事業展開により、大学・高専の働きかけと学生、行政、企業の動きがかみ合った取り組みとなった。次年度は、事業の最終年度にあたり、入学初年度から本事業に関わる授業を受講し、県内企業や自治体の取り組みへの参加、PBL 型の校外における実践的プロジェクト等を体験した学生が就職活動を開始する段階に入る。本事業が「奈良県下の連携自治体にある企業への就職率向上により若年層人口を奈良県に留める」ことを目標とし、大きな数値目標を掲げている。奈良県と奈良県にある企業の特色や魅力を体感した学生が希望をもって県内就業を選択することを期待する。また、事業終了後にも奈良県の行政・企業との連携を継続する仕組みの構築が求められる。

1. 3 事業の進捗状況

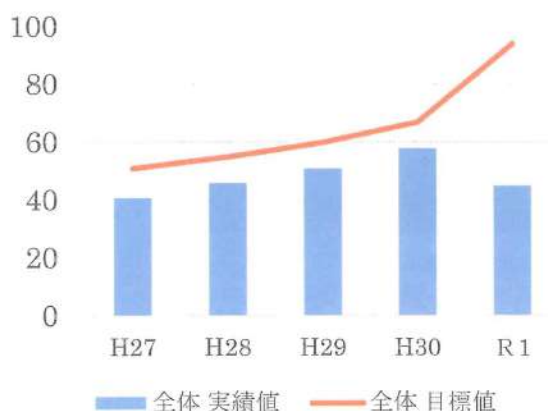
(1) 事業目標値と実績値（就職者数とインターンシップ数）（令和2年1月末現在）

地域内就職者数ならびにインターンシップ参加者数の目標値と実績値

地域内就職者数		H27	H28	H29	H30	R1
3校全体	目標値	51	55	60	67	94
	実績値	41	46	51	58	45
奈良女子大	目標値	32	33	35	39	62
	実績値	22	32	35	42	29
奈良高専	目標値	1	1	1	2	3
	実績値	1	0	2	2	1
奈良県立大	目標値	18	21	24	26	29
	実績値	18	14	14	14	15

インターンシップ参加者数		H27	H28	H29	H30	R1
3校全体	目標値	54	60	67	75	85
	実績値	60	83	84	91	84
奈良女子大	目標値	28	30	32	35	40
	実績値	46	51	57	62	49
奈良高専	目標値	3	3	3	3	3
	実績値	0	4	2	1	0
奈良県立大	目標値	23	27	32	37	42
	実績値	14	28	25	28	35

地域内就職者数（3校全体）



インターンシップ参加者数（3校全体）



(2) やまと共創郷育センターCOC+事業協議会の開催

令和元年 7 月 11 日(木)

奈良女子大学において令和元年度やまと共創郷育センターCOC+事業協議会を開催した。COC+事業協議会は事業全体の実施に関する重要な事項を審議するとともに課題やニーズを把握し、必要な改善や見直しを行うための会議で、当日はCOC+3校はじめ、事業協働機関の自治体・企業より30名の出席があった。

議長である奈良女子大学 今岡春樹学長による開会挨拶の後、同大 成瀬九美やまと共創郷育センター長から、COC+事業全体に係る平成30年度の実績報告・進捗状況及び7月2日に開催されたCOC+評価委員会での評価結果等について報告があった。続いて奈良女子大学 前川 COC+コーディネーター、奈良工業高等専門学校 藤田教授、奈良県立大学 増本 COC+コーディネーターからそれぞれ取り組み状況の発表と意見交換が行われ、出席者からは、「COC+の継続的な取り組みにより事業協働機関をはじめとする県内企業の考え方にも徐々に変化が生まれてきている」、「5年間という短い期間の成果だけでなく、10年後といった長いスパンでの成果も見据えて取り組みを進めてほしい」、「大学生による地域での活動が町の活性化に非常に重要なものとなっており、地域住民が行活力をもって活動する契機となっている」、「地域志向教育の一層の推進により一人でも多くの学生が奈良県を知り、愛着を持って奈良県内の企業等で活躍してほしい」といった意見があり、これまでの取り組みに対する評価とともに、次年度以降の事業継続に対する期待の大きさが感じられた。



令和元年度 COC+事業協議会の様子

(3) 令和元年度 COC+シンポジウムの開催

令和元年 12 月 5 日 (木)

奈良女子大学記念館において、奈良女子大学・奈良工業高等専門学校・奈良県立大学の 3 校による「令和元年度 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)シンポジウム～奈良の地方創生 その先へ～」を開催した。当日は、協働自治体である奈良県の他、県内自治体及び企業関係者ら 95 名の参加があった。

シンポジウムは、今岡学長による開会挨拶及び事業協働機関である奈良県地域振興部次長 谷垣裕子様による来賓祝辞に続き、第 1 部 やまと共創郷育センター成瀬センター長からの総括報告、COC+3 校から各校の取り組み成果報告が行われた。そして、休憩時間を利用した 3 校取り組み紹介のパネルセッションをはさみ、第 2 部では、やまと共創郷育センターCOC+コーディネーターである前川特任教授のファシリテートのもと、協働自治体である奈良県産業・雇用政策課主幹 市橋寿人様、(株)人材ニュース代表取締役 廣橋隆様、佐藤薬品工業(株) 河上瑞穂様（本学 OG、H30 年度卒）をお迎えし、3 校から学生もパネリストとして登壇し、『やまと再構築プロジェクト』がもたらしたもの」と題してパネルディスカッションが行われた。パネリストからはそれぞれの視線で意見を出し合い、奈良における地方創生と今後について活発な討議が展開された。パネラーからは、「学生は、企業にやりがいと働き甲斐を求めており、県内・県外といった垣根はない」、「会社の雰囲気が一番大切だ」、「県内企業からの学生への発信力が十分でない」といった発言があった。参加者からは、「今後も COC+活動を続けていただきたい」、「企業としての発信力を強める必要があることがわかった」、「奈良で働くことへの学生の意識が聞けて良かった」といった感想があった。

今回のシンポジウムを通じて、COC+事業によって構築された産官学連携のネットワーク（つながり）を生かしながら、企業と学生との交流の場所となるプラットフォームの役割を継続発展させていく重要性を再認識した。

日 時 令和元年 12 月 5 日 (木) 13 : 30～16 : 30 (受付開始 13 : 00～)

場 所 奈良女子大学 記念館

スケジュール

13 : 30～	開会挨拶 奈良女子大学長	今岡 春樹
	来賓挨拶 奈良県地域振興部次長	谷垣 裕子 様
第 1 部	COC+事業における取り組みの総括報告	
13 : 45～	奈良女子大学副学長（地域創生担当）兼やまと共創郷育センター長	成瀬 九美
	奈良工業高等専門学校 COC+推進責任者 電気工学科 教授	藤田 直幸
	奈良県立大学特任准教授 COC+コーディネーター	増本 貴士
14 : 45 ～15 : 05	COC+活動報告ポスターセッション ならびに 休憩	
第 2 部		
15 : 05～	パネルディスカッション	

テーマ『やまと』再構築プロジェクトがもたらしたもの

パネリスト

自治体代表	市橋 寿人 様 (奈良県産業・雇用振興部 雇用政策課 主幹)
企業代表	廣橋 隆 様 (人材ニュース㈱ 代表取締役)
卒業生代表	河上 瑞穂 様 (佐藤薬品工業㈱ 奈良女子大学大学院修了)
学生代表	室 采音 さん (奈良女子大学 大学院 2 回生)
学生代表	吉村 勘太郎 さん (奈良工業高等専門学校 専攻科 1 年)
学生代表	増島 千波 さん (奈良県立大学 1 回生)

ファシリテーター

奈良女子大学特任教授 COC+コーディネーター 前川 光正

16:10～

意見交換及び質疑応答

挨拶

奈良工業高等専門学校	校長 後藤 景子
奈良県立大学	学長 伊藤 忠通
奈良経済同友会	代表幹事 北 義彦 様

16:30

閉会

奈良女子大学・奈良工業高等専門学校・奈良県立大学 (知)の拠点
令和元年度 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)シンポジウム

共創郷育「やまと」再構築プロジェクト

奈良の地方創生 その先へ

本シンポジウムは、奈良女子大学・奈良工業高等専門学校・奈良県立大学(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)のシンポジウムとして開催されます。本シンポジウムでは、奈良女子大学・奈良工業高等専門学校・奈良県立大学(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)のシンポジウムとして開催されます。本シンポジウムでは、奈良女子大学・奈良工業高等専門学校・奈良県立大学(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)のシンポジウムとして開催されます。

令和元年 12月5日(木)
13時30分～16時30分(受付開始13時～)

奈良女子大学 記念館

参加費 無料
定員 100名
申込締切 11月22日(金)

お問い合わせ
奈良女子大学 やまと共創郷育センター
TEL:0742-20-3989 FAX:0742-20-3993 E-mail:coc-yamato@cc.nara-wu.ac.jp

チラシ(表)

令和元年度 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+) シンポジウム
共創郷育「やまと」再構築プロジェクト

参加申込書

お申し込みはこの申込書にご記入の上、ファクス(0742-20-3993)で
または以下の用紙についてEメールにてご返信ください。

ご所属団体・ 部署名	お電話番号	
	ファクス番号	
	E-mail	
ご住所または 所在地		
お名前	ご所属(役職)	情報交換会 ※参加費 2,000円
〇〇〇〇〇〇		参加 / 不参加 (お申し込みは必須です)
〇〇〇〇〇〇		参加 / 不参加 (お申し込みは必須です)
〇〇〇〇〇〇		参加 / 不参加 (お申し込みは必須です)

※ご記入いただいた個人情報は本シンポジウム開催にかかわる箇所以外には使用いたしません。

申込締切:令和元年11月22日(金)
*情報交換会参加費は当日受付にて申し受けます。

日時:令和元年 12月5日(木)
シンポジウム…13時30分～16時30分
(受付開始13時～)
情報交換会…16時50分～18時

場所:奈良女子大学 記念館(奈良市北角屋町)
近鉄奈良駅1番出口から北へ徒歩約10分

お問い合わせ
奈良女子大学 やまと共創郷育センター
ファクス:0742-20-3993
E-mail:coc-yamato@cc.nara-wu.ac.jp
お問い合わせ
電話:0742-20-3989(奈良女子大学やまと共創郷育センター)

チラシ(裏)



今岡学長挨拶



奈良県地域振興部 谷垣次長挨拶



各校の事業報告（高専 藤田教授）



各校の事業報告（県大 増本特任准教授）



各校の事業報告（奈良女 成瀬副学長）



ポスターセッション



パネルディスカッション



奈良経済同友会 北代表幹事

1. 4 COC+3 校の活動実績

(1) COC+3 校の教員交流

COC+3 校では、各校の学生が相互に地域志向科目を受講し単位を取得できるように、「単位互換に関する覚書」を締結しているが、本年度は奈良女子大学で開講している教養教育科目「なら学+(プラス)」に奈良工業高等専門学校・奈良県立大学から講師を招いて実施した。奈良工業高等専門学校で開講している地方創生科目「地域と世界の文化論」には奈良女子大学・奈良県立大学から講師を派遣、さらに、奈良県立大学で開講している「教養講義VI(地域連携・創生演習)」には奈良女子大学・奈良工業高等専門学校から、それぞれ講師を招き実施した。このことから、従来の「単位互換に関する覚書」を現状に添った「地域への興味・関心を涵養する授業の相互講師派遣に関する覚書」に改めた。



奈良女子大学「なら学+(プラス)」での
奈良県立大学講師の授業



奈良女子大学「なら学+(プラス)」での
奈良高専講師の授業



奈良工業高等専門学校「地域と世界の文化論」
での奈良県立大学講師の授業



奈良工業高等専門学校「地域と世界の文化論」
での奈良女子大学講師の授業



奈良県立大学「教養講義VI」での
奈良女子大学講師の授業



奈良県立大学「教養講義VI」での
奈良工業高等専門学校講師の授業

(2) COC+3 校合同「県内企業見学会」の開催

令和元年 9 月 26 日 (水)

(奈良経済同友会・橿南都銀行主催)

学生の地元定着促進に向け、奈良経済同友会・橿南都銀行主催によるバスで行く COC+3 校 (奈良女子大学、奈良工業高等専門学校、奈良県立大学) 合同「県内企業会社見学会」を開催した。当日は、3 校の学生 18 名が参加し、県内企業 3 社を訪問した。

今回訪問の企業は、①奈良市に本社があり結婚式場やレストランを運営するディライト㈱、②奈良県で生まれ育った工作機械のトップメーカーである DMG 森精機㈱、③桜井市に本社がありオフィスや工場、学校への給食業務を手がけるとともに、高齢者用オリジナル食「そふまる」の開発も行う名阪食品㈱の 3 社で、途中で立ち寄った南都銀行研修所では、リーフレット「ナントのホント」による銀行紹介ならび冬のインターンシップ募集の告知を行った。

ディライト㈱では出口部長から会社理念の紹介、事業説明を受けた後、若手社員の方から担当されている仕事の紹介やチャペル等の施設を見学した。DMG 森精機㈱では、人事部の脇坂様から会社紹介を受けた後、AI 化されている工場見学を行った。名阪食品㈱では峯野常務から企業理念の説明の後、高齢者向けに開発され、勅許も持つ「ソフトもち」や「そふまる」の試食も行われた。参加した学生からは、「業種が様々であっても、お客様満足の向上や社員自身の幸福を追求されている企業理念はよく似ている」、「奈良の企業を知る良い機会となった」、「実際に企業を訪問したことで外からでは見えない会社の雰囲気を感じることが出来た」、「インターンシップの情報など得ることができた」、「理系・文系関係なく活躍されており目標にしたい」といった感想があった。

今回訪問させていただいた 3 社は事業内容もバラエティーに富んでいるものの、いずれも働きやすさといった特徴もあり、新たな視点で県内企業の良さを知ることができる貴重な体験となった。

バスで行く COC+3校の拠点

奈良女子大学・奈良工業高等専門学校・奈良県立大学

3校合同 県内企業見学会

～県内企業の魅力を体感しよう！～

参加者募集！

主催 奈良経済同友会・橿南都銀行

令和元年9月26日(木) 実施

定員30名

※定員になり次第申込締切※

ディライト(株) 【奈良市】

1953年創業、結婚式場やレストランの運営、
「働き甲斐のある会社」5年連続ベストカンパニー。

DMG森精機(株) 【大和郡山形市】

1948年設立、独創的で精度の高い工作機械を
製造、販売、グローバルファンを自誇る奈良で
生まれた世界のトップ企業。

名阪食品(株) 【桜井市】

1968年創業、オフィス・工場や集団給食、
ケータリング、高齢者用オリジナルソフト食
も手がける。





《日 程》9時～17時(予定)
《詳細スケジュールは参加後に後日お知らせします》

《集合・解散場所》近鉄奈良駅(予定)

《参加費》無料 **※昼食(西井良)別途！**

《対 象》全学部 全学年

＜申込み・問い合わせ先＞奈良女子大学 やまと共創開発センター

TEL: 0742-20-3989 メール: yamato@cc.nara-wu.ac.jp

※奈良、工学生専用、工学部、工学部電気設備科
をお知らせください。 他のQRコードからも申込みできます※



チラシ



(3) COC+3 校合同「県内企業見学会」の開催

令和2年2月14日（金）

（奈良県主催）

学生の地元定着促進に向け、奈良県雇用政策課主催による COC+3 校（奈良女子大学、奈良工業高等専門学校、奈良県立大学）合同「県内企業会社見学会」を開催した。当日は、3 校の学生 28 名が参加し、2 コースに分かれて 3 社ずつ訪問した。

学生たちは到着後会社紹介の説明を受けた後、工場等を見学し、社員の方々と質疑応答を行うなど企業との交流を深め、実際にものづくり現場を体験することで県内企業の魅力を発見する良い機会となった。参加者からは、「奈良県にこのような素晴らしい会社があることを知らなかった」、「実際の職場の雰囲気がよく分かった」との感想があった。

奈良県内には B to B 企業が多く、一般消費者向けの広告などを行わないため、B to C 企業に比べるとあまり知られていないことが多くあるが、今回訪問した企業は、創業から長く続く優良企業、業界内での知名度やシェアの高さや働きやすさといった特徴があり、参加学生にとっては新たな視点で県内企業の魅力を発見する良い機会となった。

A コース：㈱伊藤金属製作所、㈱ヒラノテクシード、ニチアス㈱王寺工場

B コース：三笠産業㈱、西垣靴下㈱、梅乃宿酒造㈱

奈良県主催 地(知)の拠点
～県内企業の魅力を体感しよう！～
奈良女子大学・奈良工業高等専門学校・奈良県立大学
3校合同 県内企業見学会
バスで行く 参加者募集！ 参加費無料

令和2年2月14日（金）実施

Aコース 定員20名	Bコース 定員20名
伊藤金属製作所 自動車部品、樹脂成型、アッセンブリとモノづくりのスペシャリスト	三笠産業(株) プラスチックキャップ・ボトルキャップなど各種成形品の開発・製造工場
ヒラノテクシード リチウムイオン電池、スマートフォン等の最先端分野を支える産業機械の生産	西垣靴下(株) 襪子がテーマのエコノレッジを販売・販売。足元にこだわった履き心地の靴下を提供
ニチアス(株) 王寺工場 「耐つ・保つ」をキーワードとする床下・屋根を持つた製品・サービスを提供	梅乃宿酒造(株) 「日本酒」酒りを中心に、リキュールや焼酎など新しい分野にも積極的に進出

※昼食（お弁当）は当日無料で配布
※集合・解散場所までの交通費は自己負担
※集合・解散は近鉄奈良駅付近を予定
詳細は参加者に後日ご連絡します

定員になり次第締め切ります

参加申し込みは下記QRコードから

1 参加コース 2 校名
3 学生番号 4 学部
5 連絡用電話番号
をお知らせください。

＜問合せ先＞ 奈良女子大学 やまといし研習センター
TEL : 0742-20-3989 Mail : yamato@cc.nara-wu.ac.jp



チラシ

1. 5 COC+参加協働機関から見た本事業の取り組みに対する評価

(1) 参加自治体からの事業満足度評価

奈良女子大学から参加自治体である奈良県・下市町・野迫川村・十津川村の4自治体にCOC+事業の取り組みに対する満足度調査を行った。(令和2年1月実施)

調査結果は、以下のとおりである。

	奈良県	下市町	野迫川村	十津川村
総合評価	A	A	A	A
教育支援活動	A	A	A	A
就職支援活動	A	A	B	B

(A) 大変評価する (B) 評価する (C) あまり評価しない (D) 評価しない

各自治体からの奈良女子大学に向けたコメントは以下のとおりである。

奈良県	◎教育面及び就職支援面双方において、奈良県、県内企業と大学との双方向のネットワークが確立されたことからA評価とした。特に、教育面においては、地域志向科目『奈良』女子大学入門にて奈良県雇用政策課ならびに奈良県ならぬ観光力向上課から県の雇用政策・観光政策を幅広く伝えた。また、「なら学プラス」においては、奈良県女性活躍推進課、奈良県農林部、奈良県薬事研究センター、奈良県森林技術センター等から職員を派遣して受講生に様々な角度から奈良への関心を高めることに寄与した。COC+事業終了後も、産官学が連携して、多様な地域人材の育成、若者の地元定着を期待する。 (以下、担当部署からの意見) ○雇用政策課(含む奈良県奈良しごとiセンター) ・授業(『奈良』女子大学入門)にて奈良県の雇用政策を紹介し、奈良県優良企業ガイドブック150選の配布ならびに県内企業紹介を実施した。 ・雇用政策課が主体となりCOC+3校合同県内企業6社への見学会を開催した。 ・奈良県しごとiセンターにおいては、9月に奈良女子大学生を対象に「ならジョブカフェセミナー」を開催した。6月以降、「ナラで就カツ」相談コーナーを毎月2回開催することにより、継続的に学生の就活マッチングを実施している。 ○女性活躍推進課 ・授業「なら学プラス」にて、奈良県における女性の就業の現状や県の取り組み等に関する講義を実施。女子大学生に対して、将来のキャリアプラン・ライフプランを描く際に、就労継続を意識することの重要性を啓発する機会となった。 ○奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 ・野迫川村奈良女塾を契機に広めることのできた県内大学生による県南部東部への学習等支援事業を昨年度に引き続き開催した。今年度は、県内6大学のボランティア大学生が小・中学生向けに学習支援を実施した。日頃、大学生と触れる機会の少ないことから、小・中学生の満足度は高い。本事業に参加する大
-----	---

	学生自身が子どもたちから学び、地域を知る貴重な機会であり、大学生への教育効果も高い。
下市町	アクティビティセンターを利用して、PBL 授業の他、夏休みに下市町小中学生への学習支援事業が開催された。 地域志向科目「なら学+（プラス）」授業において下市町職員が講師として下市町での地方創生の取り組み等を発表、学生に地域への関心を向けることが出来た。また、PBL 授業「コミュニティリサーチ、コミュニティアクション」を今年度も継続して実施されたことは大変評価できる。学生と地域住民との交流を深める授業は次年度以降も続けていただきたい。就職支援活動としては、8 月に実施された留学生のための下市町内製材所見学、特産品である箸づくり体験にも協力、留学生に対し地域産業・地域文化に対する関心の向上に寄与した。 県内自治体魅力発見フェスタ 2019 に参加し、行政の立場から下市町を広く学生に知ってもらうこともできた。授業や魅力発見フェスタを通じて、奈良女子大学生が就職選考を受け、内定が決まった学生 2 名も生まれたことは COC+ 参加自治体としても大変意義深いものであった。
野迫川村	少子高齢化が進む本村において、奈良女塾のような大学生が勉強のサポートや、一緒にレクリエーションをしていただく事は、児童生徒にとっては村外者との貴重な交流の場であり、実際に大学生と触れあう中で自分の将来を考える契機になり、学習意欲の向上など良い機会であった。
十津川村	PBL 教育科目実践の取り組みでの活動により地域住民が生き生きと交流する機会を得られるとともに、地域のため大学生に活動してもらえることが地域住民の励みにもつながっているため、COC+事業終了後も継続して連携を続けていきたい。林業実習により村・山・林業の魅力を体験していただき、実習により感じた木を使うことの必要性を「鹿と木マルシェ」で広く発信してもらうことができたと思う。今後も村の林業振興につながる林業PRをお願いしたい。また、村の魅力を感じてもらい、移住定住につながることを大いに期待したい。

（２）奈良経済同友会からの事業満足度評価

奈良女子大学から COC+ 参加団体である奈良経済同友会に対して、COC+ 事業の取り組みに対する満足度調査を行った。（令和 2 年 1 月実施）

調査結果は、総合評価、教育支援活動、就職支援活動とも「大変評価する」A 評価であった。なお、いただいたコメントは以下のとおりである。

コメント	教育面においては、地域志向科目の全学必修化の完了、地域志向科目「奈良女子大学入門」、「なら学+（プラス）」授業における奈良県内企業経営者による講義は、学生の県内企業への関心だけでなく地場産業、地域との相互交流に大きく寄与した。また、新たにアントレプレナーシップ醸成の授業を開始して、ビジネスプランコンテストでの入賞など学生に向けた起業チャレンジ精神の涵養など高く評価できる。就職面では、当会においても会員企業へのバスによる 3 校合同会社見学会を実施し協力させていただいた。 県外出身学生が多いなか、インターンシップ参加者学生も KPI を達成されて
------	---

	いる他、県内企業リーフレットの配布や県内企業・県内自治体魅力発見フェスタ、コーディネーターとの帯同訪問による県内就職者増加への支援活動などにも積極的に取り組まれている。 引き続き、若者の地元定着に向けた活動に期待している。
--	---

(3) 奈良工業高等専門学校に対する事業満足度評価

(令和2年1月実施、回答率100%)

奈良工業高等専門学校から参加企業にアンケート調査を行い、令和元年度の本校COC+事業の取り組みに対し12事業協働機関・部署から回答を得た。

① 令和元年度 奈良高専COC+事業の総合評価

〔A〕 大変評価する ⇒ 8機関

〔B〕 評価する ⇒ 4機関

〔C〕 あまり評価しない⇒ 0機関

〔D〕 評価しない ⇒ 0機関

※回答協働機関における好評価獲得率（〔A〕 + 〔B〕）：100%

回答を得た全ての協働機関・部署から好評価を得ることができ、最終年度となる令和元年度の本校COC+事業が事業協働機関に確かな評価を得ていることを示している。

② 本校の地域創生教育に対する評価

〔A〕 大変評価する ⇒ 8機関

〔B〕 評価する ⇒ 4機関

〔C〕 あまり評価しない⇒ 0機関

〔D〕 評価しない ⇒ 0機関

※回答協働機関における好評価獲得率（〔A〕 + 〔B〕）：100%

<自由記入欄でのコメント>

- ・地域創生教育を通じて奈良県に愛着を持ち、将来、奈良県で活躍されると期待する。
- ・学生が地域、世界に求められるものを知ることが、学生・社会双方にとってより良い未来につながる。
- ・学年進行に沿った教育プログラムにより、勉強に忙しい学生の記憶にも残る。
- ・多くの県内企業等と講義に係る打合せを実施しており、内容の充実が図られている。
- ・奈良県だけでなく、県内の市町村とも連携し地域創生に効果的に取り組んでいる。

③ 県内雇用促進、人材定着に向けた取り組みに対する評価

〔A〕 大変評価する ⇒ 7機関

〔B〕 評価する ⇒ 5機関

〔C〕 あまり評価しない⇒ 0機関

〔D〕 評価しない ⇒ 0機関

※回答協働機関における好評価獲得率（〔A〕 + 〔B〕）：100%

<自由記入欄でのコメント>

- ・県内再就職支援で実績があがっていることは大変興味深い。今後も大いに期待する。
- ・OB・OG人材と県内企業とのマッチングの推進をお願いする。

- ・イノベーションコンソーシアムの総会に約 20 名の学生・卒業生が参加しており、貴重なマッチングの機会と言える。
- ・大手企業の少ない奈良県ではあるが、まず第一歩として交流会等を通じて奈良高専教員に多くの企業を知ってもらえたことに感謝する。
- ・技術系のものづくりに熱心な学生が多く、その力を奈良県でも期待している。
- ・引き続き、県内再就職支援の取り組み継続をお願いします。

④ 本校の地域創生研究開発（研究クラスター）等に対する評価

- 〔A〕 大変評価する ⇒ 8 機関
- 〔B〕 評価する ⇒ 4 機関
- 〔C〕 あまり評価しない ⇒ 0 機関
- 〔D〕 評価しない ⇒ 0 機関

※回答協働機関における好評価獲得率（〔A〕 + 〔B〕）：100%

<自由記入欄でのコメント>

- ・専門性をもって取り組まれている点が良い。工業の幅広い可能性を感じる。
- ・県内企業による研究開発への支援が広がり、優良企業がより多く創出されるよう引き続き支援をお願いします。
- ・学生時代から社会の課題解決を意識して研究することは、人材育成という点でも評価できる。5つの研究クラスターごとに特色ある研究開発が進められている。

⑤ 本校 COC+事業全般を通じての主なご意見等

- ・地域創生科目の「COC+政治経済」では協力いただいた県内企業にも大変好評であった。引き続き、産学金連携の推進をお願いします。
- ・今後も COC+事業発展のため尽力をお願いします。
- ・地域に目を向けるには、中学・高校など若いうちに地域をよく知ることが大切であり、効果がすぐに出るものや何年もたって出るものもある。今年度でプロジェクトが終了とのことですが、継続できるものについては引き続き活動をお願いします。
- ・地方創生教育・研究は、若い学生が将来の夢・目標について考える貴重な機会であり、必ず人の育成に役立つと思う。今後も学生に対し、座学の他に社会を見る、聞く機会を積極的に提供いただきたい。
- ・県内企業との共同研究、学生の就職支援活動に尽力いただき感謝いたします。今後も奈良高専の取り組みに対し連携・協働を図ってまいりたい。
- ・プロジェクトは本年度で終了とのことですが、人材は企業の力であり、若者が奈良に根付くよう今後も地域創生活動を継続していただきたい。また、奈良高専の研究活動にも協力していきたい。

※ 本校のこれまでの COC+活動に対し高い関心と評価を得ると共に、今後の本活動継続への強い期待が寄せられた。「教育」、「研究」、「雇用促進、人材定着」の各施策において着実に成果をあげると共に、その活動が学内外で浸透し、事業協働機関から高い評価をいただけたことを励みに、今後も本事業の継続に取り組んでまいります。

参考 COC+活動の5年間の取り組み

(1) シンポジウム

第1回 (H28.3.13)

キックオフシンポジウム

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」
キックオフシンポジウム

主催：奈良女子大学、奈良工業高等専門学校、奈良県立大学
後援：奈良県、奈良市、奈良県教育委員会、奈良県労働委員会

日時：2016年3月13日(日)
13:00~18:00

会場：奈良女子大学 大講堂
「明日香・唐門」

参加費：無料(定員100名)
要事前申込
参加費無料の席は限られています。お申し込みください。

お問い合わせ先
奈良女子大学 学務部 学務課 学務課長 山本 由美子
〒742-0292 奈良県奈良市大和町1-1
TEL: 0742-261-2222 FAX: 0742-261-2223
E-mail: kokoro@nara-wu.ac.jp



第2回 (H29.3.18)

奈良の魅力を知り、奈良を支える人材育成の実践的取り組み

奈良女子大学・奈良工業高等専門学校・奈良県立大学
地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)H29.3.18
～奈良の魅力を知り、奈良を支える人材育成の実践的取り組み～

共創連携『やまと』再構築プロジェクト

日時：2017年3月18日(土)
13:00~16:30(最終場 12:30~)

会場：奈良女子大学 記念館

参加費：無料(定員100名)
要事前申込
参加費無料の席は限られています。お申し込みください。

お問い合わせ先
奈良女子大学 学務部 学務課 学務課長 山本 由美子
〒742-0292 奈良県奈良市大和町1-1
TEL: 0742-261-2222 FAX: 0742-261-2223
E-mail: kokoro@nara-wu.ac.jp



第3回 (H30.3.5)

奈良からの刺激、奈良への発信

奈良女子大学・奈良工業高等専門学校・奈良県立大学
地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)H30.3.5
～奈良からの刺激、奈良への発信～

共創連携『やまと』再構築プロジェクト

日時：2018年3月5日(日)
13:00~16:30(最終場 12:30~)

会場：奈良女子大学 記念館

参加費：無料(定員100名)
要事前申込
参加費無料の席は限られています。お申し込みください。

お問い合わせ先
奈良女子大学 学務部 学務課 学務課長 山本 由美子
〒742-0292 奈良県奈良市大和町1-1
TEL: 0742-261-2222 FAX: 0742-261-2223
E-mail: kokoro@nara-wu.ac.jp



第4回 (H31.3.6)
奈良から発信する地方創生への道



第5回 (R1.12.5)
奈良の地方創生 その先へ



(2) 評価委員会ならびに事業協議会の開催

	評価委員会	事業協議会
平成 27 年度	—	平成 27 年 12 月 18 日 (金)
平成 28 年度	平成 28 年 6 月 27 日 (月)	平成 28 年 7 月 14 日 (木)
平成 29 年度	平成 29 年 6 月 30 日 (金)	平成 29 年 7 月 11 日 (火)
平成 30 年度	平成 30 年 6 月 29 日 (金)	平成 30 年 7 月 31 日 (火)
令和元年度	令和 元年 7 月 2 日 (火)	令和 元年 7 月 11 日 (木)

(3) 3 校合同活動事例

開催日	訪問先	協力(主催)	参加人数
平成 29 年 8 月 8 日	ならやま研究パーク ①(株)ATOUN ②ダイワハウス工業(株) ③アイコム(株) ④南都経済研究所	—	27 名
平成 30 年 2 月 19 日 平成 30 年 2 月 20 日	1 日目 ①DMG 森精機(株) ②三和澱粉工業(株) ③(株)イムラ封筒 ④佐藤薬品工業(株) 2 日目 ①大光宣伝(株) ②小山(株) ③(株)大和農園ホールディングス ④岡村印刷工業(株)	奈良経済同友会 (株)南都銀行	54 名
平成 31 年 2 月 15 日	A コース ①(株)品川工業所 ②上六印刷(株) ③(株)フジフレックス B コース ①辰巳電子工業(株) ②(株)藤田油機 ③ケイミュー(株)	奈良県雇用政策課	31 名
令和元年 9 月 26 日	①ディライト(株) ②DMG 森精機(株) ③名阪食品(株)	奈良経済同友会 (株)南都銀行	18 名
令和 2 年 2 月 14 日	A コース ①(株)伊藤金属製作所 ②(株)ヒラノテクシード ③ニチアス(株) B コース ①三笠産業(株) ②西垣靴下(株) ③梅乃宿酒造(株)	奈良県雇用政策課	28 名

(4) 参加協働機関から見た本事業の満足度調査（総合評価）

	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
奈良県	B	A	A	A	A
下市町	B	A	B	A	A
十津川村	B	A	A	A	A
野迫川村	B	A	A	A	A
奈良経済同友会	B	A	A	A	A